

2017年11月5日 VOL.40-45No.2140

◎祈祷会11/1(水) 詩篇91:1、27:5他

頼子師「ディボーション」

次は家族・同僚・入院・施設など、誰かといっしょに暮らす中でのディボーションです。・食べ物・おくすり・誰かなど、何かに逃げるなら、主の前に逃げるのです。現実逃避ではなく現実に立ち向かうため、主の前に逃げるのです。単身の時とさほど変わらず、工夫によってその変化を乗り越え、守られやすい時ですから。結論は、心霊的に環境的に、隠れ場を持つこと。私が隠れ場に行くと(詩91:1、119:114、マタイ6:6)、主が私をかくまってくくださる恵みを知るのです(詩27:5、31:20)。続く

2017年10月29日 VOL.40-44No.2139

◎祈祷会10/25(水) ヨハネ11:41

渡邊師「神とともにある日々を！」

ここはラザロの死の事実、腐敗している事実、人々の不満の事実の中で「石を取りのけなさい」「父よ…感謝いたします」(41)と祈られた。ウェスレーは、神と共にある日々を送ることに専心していた。時間枠でのデボーションや交わりも尊いが、朝の目覚めから就寝迄の全時間を神と親しく交わることを目標に歩んだ。私たちもあらゆる時に、坦々と主を見上げて感謝の祈りを捧げて歩む者とならせていただきたい。普段の会話の「ありがとう」「助けてください」「導いてください」「教えてください」「守ってください」と連発し主を証する者となれますように。

2017年10月22日 VOL.40-43No.2138

◎祈祷会10/18(水) 哀歌3:25~28

頼子師「ディボーション」

哀歌3:25~28胎児には聞かせ、乳児にはしてあげ、幼児とはいっしょに、そして小学生の時は「自分で」の第一歩です。自分で賛美し、自分で聖書に聴き、自分で祈ることの第一歩です。中学生から単身時代は、戦いながら戦いながら、基本型を崩されてはたて直し崩されてはたて直ししながら、色々な変化の中で身につけていく時期でしょう。一人なので①設計しやすく②主との一対一の状況に即入りやすく③具体的課題の中で主と豊かに交わりやすく④その身軽さで色々な所から信仰の養いを頂きながら、その恵みをディボーションで消化していきやすいのです。続く

2017年10月15日 VOL.40-42No.2137

◎祈禱会10/11(水) 詩篇133:1

渡辺師「兄弟たちが一つに」

詩篇133:1上京し自分の兄弟たちと会った。時の経過の早さを色々な意味で感じた。聖書の中に兄弟についての記述がある。①兄弟は困難を分け合うことができること(箴言17:17)。②親しい中にも礼節をわきまえること「あなたが災難に会うとき、姉妹の家に行くな。」(箴言27:10)。③兄弟同士でも心を開かない時がある。「堅固な城より近寄りにくい。…かんぬきのようなだ」(箴言18:19)。しかし最初に開いた詩篇には、兄弟たちがともに住む幸せと楽しみが書かれている(133:1)。これは身内の兄弟を越えて霊的な兄弟姉妹たちの天国での祝福である。なお感謝をもって地上の生涯を歩ませていただきたい。

2017年10月8日 VOL.40-41No.2136

◎祈禱会10/4(水) ヘブル4:16

頼子師「ディボーション」

先回はディボーションの基本の型を確認し、今回は変化する型です。自分がどの年代で信仰を持ったか、どう人生を導かれてきたかによって違うでしょうが、その年代年代で、どう基本形を意識し工夫していくかではないでしょうか。まずは胎児、乳児、幼児の子ども時代です。胎児の時は、大人(親)が賛美を聞かせ、聖書朗読を聞かせ、祈りを聞かせます。乳児の時は、目覚めたときにひと言、お乳の時にひと言、うんちの時にひと言、感謝したことをひと言、「イエスさま～しました、ありがとうアーメン」と祈ってあげます。幼児になったら、朝起きた時、食事の前、出かける時、夜寝る時、必ずいっしょに祈ります。続く

2017年10月1日 VOL.40-40No.2135

◎祈禱会9/27(水) ローマ8:37

渡辺師「余力ある勝利者」

「私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」。「勝ち得て余りあり」(文語)「輝かしい勝利を収めています」(新共同訳)とある。パウロが語っている信仰生涯とは、フウフウ限界ストレスの勝利でなく、余力をもった勝利の約束でした。霊的、力と恵みの欠乏症に陥っていないだろうか。それらを解決するには、「私たちを愛してくださる方によって」(37a)とあるように、イエス・キリストとの日々の関係性の豊かさに秘訣がある。この関係を大切に濃密なものとして戴こう。

2017年9月24日 VOL.40-39No.2134

◎祈禱会9/20(水) 詩103:2、マタイ4:4、詩65:2

頼子師「ディボーション」

ディボーションとは静思の時。その基本の型と、生涯の中で色々変化せざるを得ない型を確認したい。まず、神さまがどういうお方か思い起こし、捕らえ直し、賛美し、感謝をささげる。詩篇103:2次に聖書とディボーションガイドなどを用いて聴く。マタイ4:4そして聴いて促されたことを言葉にして祈る。詩篇65:2これは、神さまとの交わりであり、恩寵の手段(恵みを受けていく方法)であり、特別な魂の養いの時です。最短で15分、執り成しの祈りが加わると30分、より深く長くなると1時間。続く

2017年9月17日 VOL.40-38No.2133

◎祈禱会8/13(水) ピリピ3:20~21

渡辺師「故・国光幾代子先生」

資料より今晚は8月17日に召され、21日告別式が執り行われた「国光幾代子先生」の資料を紹介したい。本人のお証しの小冊子が添えられ、タイトルは「恩寵の軌跡」。その中を見ると「その声を知るによりて」と題があり、仏教の家で育ち心の空しい中から救われたこと、その後母と姉妹たちが熱心に教会や奉仕に励んだことが書かれてある。次に「聖潔」を求め聖別会に出席し第二の転機を体験。「もはや我、生きるにあらず」と神に全き献身をし伝道者の道を踏み出したこと。更に「献身その後」で(1)十字架につけられたり(2)キリスト我が内にありて(3)「神の子を信じるによりて」(4)「むすび」にインマヌエルに導かれた感謝の証しがあった(詩16:6)。

2017年9月10日 VOL.40-37No.2132

2017年9月3日 VOL.40-36No.2131

◎祈禱会8/30(水) 詩103:2、マタイ4:4、詩65:2

頼子師「クリスチャン生活」

初めに思い描いた内容より、多く長くなったが、教会とは、I 聖霊により産み出され、組織体として守られた集まりであり、II 中心は礼拝(創造者なる神の前に被造物として頭を垂れる)であり、III 仕えることを学び、IV 私の身をもって欠けたところを補い合い、V 愛の増大を祈り、分裂分派から守られるようにと確認した。今回よりクリスチャン生活に入る。ディボーション、家庭生活、教会生活、証という四つの角度からまとめてみたい。初めはディボーション。基本の型と、生涯の中で色々変化せざるを得ない型を確認したい。続く

2017年8月27日 VOL.40-35No.2130

◎祈祷会8/23(水) ヨハネ5:24

渡辺師「聞く者は生きる」

ここに「聞く者は生きる…」とある。主イエスは「まことにまことに」と重要性を警鐘しながら語られた。言い過ぎかも知れないが、信仰の世界は、見るより聞く世界の方が重要だと強調されたようだ。罪と不信仰の中に、靈的に死んでいた者が、その姿に目覚め、現実の「今」の営みに緊迫感を覚えて生きるという約束に心を真剣に集中する営みは、信仰者の最も大切な生命線ではないかと言っておられる。私たちは神に聞くこと、自分の心に聞くこと、人に聞くこと、それ以上に聖書に聞き、聖霊に絶えず聞くことが大切です。声は一瞬で通り過ぎこだまは長くは残りません。またはっきり聞こえない時もありますが、しかし神の前に座ってこのことに専心するとき、私たちのその信仰は高く引き上げられるのです！

2017年8月20日 VOL.40-34No.2129

2017年8月13日 VOL.40-33No.2128

◎祈祷会8/6(日) ルカ10:33

3渡辺師「旅人が旅人を！」

天気予報ではスピードの遅い大型台風の接近が報じられている中でしたが、無事に5人のご婦人を教会にお迎えできました。教会の方々のご協力のもとで、讃美とお食事のひとつ、またそれぞれの自己紹介と、信仰のお証しを戴くことが出来ました。短くお開きしましたみことばは、「ところが、あるサマリア人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い…」です(ルカ10:33)。長旅の旅人(サマリア人)が、別の旅人の大けがを見て大切な時間と費用を犠牲にして解放してあげたところです。私たち一人一人も人生の旅の途中で、自分のことで忙しい日々ですが、他の旅人に心を向ける、思いやる、いたわれる旅人であったなら何と素晴らしいことでしょうか！

2017年8月6日 VOL.40-32No.2127

◎祈祷会8/2(水) ガラ5:19,20 I コリ11:18,19

頼子師「教会V」

分裂、分派は肉の行いの中の一つであり、御霊の実である愛の欠如が大きな要因の一つのようです(ガラテヤ5:)。そして、分裂分派はあると語られ、本当の信者(試験済みのもの)が明らかにされるためには、分派が起こるのもやむをえないとも語られています(I コリ11:)。しかし、同労者として聖書の捉え方の違いがあっても、敬い愛する故に、分裂をするわけではありません。なかには近づかない方がよい器、自分が絶対者になっていく器もありますが、神のみ前にあって、知識や経験の増大とともに愛の増大を祈り、心し

ていきたいものです。

2017年7月30日 VOL.40-31No.2126

◎祈祷会7/26(水) II列王3:15~18

渡辺師「小さなことだ！」

ここはイスラエル王とユダ王(ヨシャパテ)とエドムの王の連合軍が、モアブと戦い、水の欠乏で苦戦をしていた時でした。王たちは預言者エリシャを捜して伺いをたてる願いをした。立琴の流れる中で、エリシャは神の預言を語り、①溝をほれ、水が流れてくる。②これは超自然的な現象である。③水の供給は小さなこと、敵モアブに勝利すると語られました。水が与えられることは小さなこととエリシャは語った。私たちは目の前のことを「大きなこと」とし易い。神の目に真に大きなこと重大なことを小さいこととしてしまう危険から、神への信仰と信頼をもって見る器へとさせていただきます。

2017年7月23日 VOL.40-30No.2125

◎祈祷会7/19(水) コロ1:24、25

頼子師「教会IV」

「私が、私の身をもって、欠けたところを満たさなかったら、あの月は満月にならない、あのジグソーパズルは完成しない、ですから私の分を果たします」これが教会に仕える者の姿ではないでしょうか。そして不健全さから守られる注意点(教会に限られたことではないでしょうか)があります。やかましいドラやうるさいシンバルのようなやってあげてる感と、心が伴わないやらされてる感です。不健全さから守られ、主の主権を認めるが故の、やらせていただいている感という、健全さを漂わせた私たちでありたいです。そして、教会はからだですから、少々の違いでは分裂しません。(次回へ続く)

2017年7月16日 VOL.40-29No.2124

◎祈祷会7/12(水) ピリピ4:6

渡辺師「お祈りのヒント！」

「お祈りのヒント！」ここは有名で親しまれ愛されている聖句です。私たちのお祈りのことがよくわかる教えでもあります。自分の言葉に言い換えるとどんな表現になるのでしょうか。①「何も思い患わないで」=心配してしまう前にお祈りしよう。②「あらゆる場合に」=どんな些細なことも祈りに結びつけましょう。③「感謝をもって」=お祈りのコツは、まず「ありがとう」から始めこと。④「祈りと願い」=お祈りも色々で、感謝や讃美、願いや相談 etc があっていいんですよ。⑤「御霊によって祈る」=今一番心に導かれている(思い起させて下さ

った)ことを祈っていこう。祈らなければと思うことを自分の所で抱え込まず、聞いて下さる神様にお渡ししてしましましょう。

2017年7月9日 VOL.40-28No.2123

◎祈祷会7/5(水)コロ1:24、25

頼子師「教会Ⅲ」

私たちは、献げものを持って礼拝し、経済をも整えて聖日礼拝を迎えます(前回補足)。聖日礼拝は、自分自身のためにはあるのですが、自分自身のためだけにあるのではありません。主に仕え、教会に仕え、他者に仕える生き方を身につけていく所でもあります。教会はキリストのからだですから、キリストの苦しみ(キリストのからだの苦しみ)の欠けた所を、自らの分を果たして満たします。それぞれ立場は違っても教会(キリストのからだ)に仕えます。自分のためだけなら、恵まれた、励まされた、慰められた、来られたので来ましたで終わりです。今日あなたは、主とどなたかのためにもそこに座っていますか、と言うことではないでしょうか(続く)。

2017年7月2日 VOL.40-27No.2122

◎祈祷会6/28(水) エステル6:1~3

渡辺師「眠れない夜も!」

「眠れない夜も!」誰でもぐっすり眠れる夜があるかと思うと、一睡も出来ない夜もあります。アハシュエロス王も眠れぬ夜に、日記(過去帳、業務日誌)を部下に読ませました。そして過去の行政点検した時、そこで暗殺を未然に防いだ命の恩人に、自分が何の報償もしていない失態を発見しました。先達者は「朝にお茶を忘れたら三里行ってからでも戻って飲め」と言われます。今年もはや半年が経過しました。様々な困難や苦境を味わったかも知れませんが、その中で神が示し語り教えておられます。心柔らかに信仰をもって豊かに対応する者となって、この年の後半をスタートさせていただきましょう。

2017年6月25日 VOL.40-26No.2121

◎祈祷会6/21(水) コロ1:24、25

頼子師「教会Ⅱ」

前回、教会とは他の集まりとは違う集まりであることを、聖書から確認しました。共に健全な理解をして進みたいと願います。教会は集まりですから、集まります。その中心は礼拝です。復活を記念して集まる聖日礼拝です。そこで、一人の被造物として、創造者全能者統治者の前に、頭を垂れ礼拝します。聖書のみことばを聞きます。讚美歌の歌詞に

託して、主をほめたたえ、感謝し、心の告白信仰の告白をします。祈ります。そして最も大切にしている集まりです。私たちはここに焦点を合わせた生活設計をします。具体的には健康と仕事と諸用事を整えます。(次回へ続く)

2017年6月18日 VOL.40-25No.2120

◎祈禱会6/14(水) 使徒6:1~2

渡辺師「優先順位の修正」

「優先順位の修正」ここに「なおざり」(1)とあります。放って置かれると言う現実、人間社会ならどこでも時々見受けられる光景ではないでしょうか。並んでいても平気で無視する人もいます。悪意がなくとも初代教会において、忙しさが原因で弱者やマイノリティー(少数の人々)の生活にまで心がゆきとどかなくなってしまったようです。12弟子たちは、急ぎ会合を持ち、この問題に小手先ではなく根本的な解決、霊的なことを「後回し」(2)にすることに対応出来たわけです。この世は効率だけを考えて営む傾向がありますが、この世の判断ではなく、素晴らしい判断で対応しました。私たちの信仰生活も見直して、優先順位のズレを修正させていただきます。

2017年6月11日 VOL.40-24No.2119

◎祈禱会6/7(水) Iコリ1:9、他

頼子師「教会」

教会とは、集まりです。主との交わりに入るため召し出された者の集まりです(Iコリ1:9)。また素晴らしいみ業を宣べ伝えるという用事があって招かれた者の集まりです(Iペテロ2:9)。そして主に約束され(マタイ16:18)聖霊に産み出された集まりです(使2:)。また教会とは、それぞれが目であり手であり足でありと言うキリストのからだであり(Iコリ12:27)、かしらはキリストです(コロサイ1:18)。また教会とは、共に影響し合う天的世界大の有機体であり、それぞれが見える形で地域に属し、教会籍を持つ組織体です。

2017年6月4日 VOL.40-23No.2118

◎祈禱会5/31(水) (最初)詩篇51篇。

渡邊師「砕かれたものの美しさ」

器の傷に金粉を塗って焼くと美しい斬新な作品ができる。この詩篇のダビデの心は「真実な心」(6a)の欠如を痛み、「隠れた心」(6b)を認めて、「きよい心」(10)を求め、ついに神からの赦しの「悔いた心」(17)の実体験を戴いた。(最後)使徒2:17、18。「老人は夢を見る」。最近、老人の暴走、逆送、孤独死などが多い。社会の歪み、弱者の悲しみを思う。

老人には「教養(?)」が必要、「きょうよう」とは「今日、用」がある、外出の用事を持つこと。聖書では、老人には「夢」が必要だと語られた。人生の厳しさを体験してきた者に、「その日」に訪れる夢(希望)を約束された。終末に神からの聖霊の大傾注があることを、すべての者がリバイブされることを私たちも叫ぼう！

2017年5月28日 VOL.40-22No.2117

2017年5月21日 VOL.40-21No.2116

◎祈禱会5/17(水) I コリ15:52~54、ピリピ3:21

頼子師「救い」VI

I コリ15:52~54、ピリピ3:21 主の再臨時、私たちは、朽ちるものから朽ちないものへ、死ぬものから不死のものへ、死は勝利にのまれ、主と同じ栄光の姿に復活、栄化されます。私たちは、救い I からVIまで学び確認してきました。この一連のすべてをもって、広く大きく「救われた」と言います。けれども私たちは、このすべてを知ってスタートしたわけではありません。信じます、従っていきますとの小さなひと言のスタートが、このすべての大いなる救いの恵みのスタートだったのです。ハレルヤ！

2017年5月14日 VOL.40-20No.2115

◎祈禱会5/10(水) ヨハネ14:26

渡辺師「教え、思い起こさせる霊」

今年もペンテコステ記念日(6/4)が近づき、聖霊を待望する時となった。聖霊の職分(働き)は、イエス・キリストの栄光を現すこと(ヨハネ16:14)、他にも罪と義とさばきの誤解を判らせる(16:8)。またここでは「助け手」で、「すべてのこと」を①教えるお方、②思い起こさせるお方、と示されました。もし私たちの心と態度に、このお方の声を聴く準備と待ち望みがあるならば、確実に具体的に実際的なことまで教えて思い起こさせてくださるのです。前方(将来)を向き豊かに教えられ、後方(過去)を向いて深い意味を悟るペンテコステの時とさせて戴こう。

2017年4月30日 VOL.40-18No.2113

◎祈禱会4/26(水) I テサロ4:15~17他

頼子師 I テサロ4:15~17他

再臨というとテサロニケ人への手紙です。再臨の時、死者がまず初めによみがえり、次に彼らといっしょに、生きている者が空中に一挙に引き上げられ空中で主とお会いします。号令、御使いのかしらの声、神のラッパの響きと共に、主は天から下って来られます。



その時は、夜中の盗人のように、平和だ安全だと言っているとき突如訪れますが、光の子どもである私たちには盗人のようにはありません。また大患難時代と言われる描写は、マタイ24章が詳しいです。この手紙は、再臨と共にきよめが強調されています。興味本位でなく不健全でもなく間違った情報、間違った理解と適用から守られ再臨の理解が聖きを歩む材料となりますように。

2017年4月23日 VOL.40-17No.2112

◎祈祷会4/19(水) Iコリント9:22

渡邊師 (司会代行)「弱いものとなる」

「病気をしてみないとなかなか優しくなれないのかなあ」と耳にした。パウロも「弱いものには弱いものとなった」と語った。私たちは苦しみをいぶかり深く悩む時がある。この時こそ自分の弱さを認め他の弱い人に同情できるようにと準備される、神の特別扱い(VIP)と受けとめようではないか。(後半の聖書)「結末見て信仰に倣え」ヘブル13:7

2017年4月16日 VOL.40-16No.2111

◎祈祷会4/12(水) Iヨハネ1:7他

頼子師 「救い」IV

聖化の恵みは、第二の転機・全き愛・キリスト者の完全・聖霊の満たし等々、その内容をあらかず沢山の言葉で表現されます。その中の一つは、光の中を歩む生涯(Iヨハネ1:7)です。一例として、知りながら他者に対して意地悪い心で歩むか、良心の光の中で愛とゆるしの中を歩むかと言った問題です。そしてこれは、子として訓練されていく生涯(ヘブル12:7~10)です。何かができるようにと言う以上に、ご自分の聖さにあずからせようとしてです。信頼して委ねきる(献身)ことによって経験できる恵みです。一步の踏み出しを、そして一步一步のこの恵みの中の歩みを！

2017年4月9日 VOL.40-15No.2110

◎祈祷会4/5(水) I列王3:3~15

渡辺師 「聞き分ける心」

ここは父ダビデの後を継いだソロモンのことが書かれています。彼は自分でも若い者で、小さい子の様だと自覚していました。多くの国民の訴えを正しく裁くには、その重圧と困難を自覚していたのです。彼は夢の中で「何が欲しいのか、願え」との神の声を聞いた(5)。彼は「おびただしいあなたの民を正しく裁く知恵の心を下さい」と願いました。それは「聞き分ける心」(9節)であり、耳で正しく聞く力、聞いて深く分析する力、そのことを豊かに語

り出す心が欲しいと願ったのでした。この願いが御心にかない、他に長寿、富、命の日を長くすると約束されました。

2017年4月2日 VOL.40-14No.2109

2017年3月26日 VOL.40-13No.2108

◎祈祷会3/22(水) ヨハネ1:12

頼子師「救い」③

救いの世界には、十字架によってのみ(神のみわざ)、悔改めと信仰によってのみ(私たちのすること)入れることを先回確認しました。その私たちにまず与えられる恵みは、義認と新生です。義認とは、立場の変化です。神の側からは救いの立ち位置に立ちましたよ、無罪放免ですよ、義と認めますよとの宣言であり、私の側からは救いの側に立ちました、クリスチャンになりましたとの意識と告白です。新生とは、中味の変化です。神の側からの新しい生命と性質の賦与であり、私の側では、頂いた新しい生命の育みのスタートです。クリスチャンには手続き(条件)を踏めばすぐなれます。クリスチャンらしくなっていくには時間がかかりますね。

2017年3月19日 VOL.40-12No.2107

◎祈祷会3/15(水) IIコリント4:~10

渡辺師「再起する力を！」

この箇所9節で、「倒されますが滅びません」とパウロは述べております。これはパウロが宣教で経験したことでしょう。彼は石打で郊外に放り出され死んだものと思われたが、再び立ち上がって宣教を続けました。いま大相撲が放映されているが、初日から横綱が破れ波乱の場所となっている。相撲なら倒れた時点で敗北だが、パウロの表現はボクシング(格闘技)を想起させる。「ノックダウンされてもノックアウトはされない」と。私たちがノックダウンしようとするものは多くある。病気、疲労、心配事、金銭的な欠乏、年齢的な課題などなど。私たちを最善に導かれる主を見上げ、復活の希望と力を抱いて再起するものでありたい。

2017年3月12日 VOL.40-11No.2106

◎祈祷会3/8(水) 使徒20:21

頼子師「救い」(II)

罪の世界にいた私たちに、働き続けていた先行的恩寵があったこと、そして救いの世界に渡るには、神が備えてくださった十字架以外にないことを先回確認しました。ではどう

したら、私は救いの世界に入れるのでしょうか。今までの生活にピリオドをつけ(悔改め)、スタートをきることです(信仰)。神を悲しませていた根本的な悔改めと、人に対する申し訳なさの悔改めと、十字架への信頼です。救いは、より罪がわかる世界、より悔い改めが深められていく世界、より主の助けの必要を認め信頼していく世界、より自分にも他者にも十字架の赦しを認め信頼していく世界のスタートです。うれしいですね。

2017年3月5日 VOL.40-10No.2105

◎祈禱会3/1(水) ピリピ4:6

渡辺師「感謝は偉大な推進力！」

信仰者の人生の大切な要素の祈りは、特別であり更にその中でも感謝のお祈りは大切と思う。主イエスの地上生涯では、五千人の給食と七千人の給食、そして「最後の晩餐」の席上でも、大きな感謝の祈りがささげられた。パウロの手紙では、絶えず感謝(エペソ1:16)、喜びをもって感謝(コロサイ1:12)、目を醒まして感謝(コロサイ4:2)、キリスト・イエスに感謝(Ⅰテモテ1:12)、あらゆる場合に何事も感謝(ピリピ4:6)、多くの感謝をもって(Ⅱコリ9:12)と、証しとともに私たちに勧めている。「感謝」こそ喜びと恵みと輝きに満ちたクリスチャンのジェットエンジン(推進力)です。私たちが小さなことも見落とさずに感謝の光の中で祈るとき、水分補給を得たランナーのごとくにどこまでも疾走出来るのです。

2017年2月26日 VOL.40-09No.2104

◎祈禱会2/22(水) 使徒20:21

頼子師「救い」(前半)

私たちは、罪の世界にいた。神を知らない世界、知ろうとしない世界、神を認めない世界、認めようとする世界である。見ておられる、聞いておられる、知っておられると神を畏れもしないし、見ておられる、聞いておられる、知っておられるとその愛、励まし、慰めも受け取れない。しかし、そこに働き続けていた神の恵み(先行的恩寵)があった。救いに応じる機会である。私たちが救いの世界に入れていただくには、十字架以外にない。善行を積んでも、知識教養を身につけても、クリスチャンの交わりに加わっても入れない。神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰によってのみである。(次回に続く)

2017年2月19日 VOL.40-08No.2103

◎祈禱会2/15(水) ヨハネ:39、42

渡辺師「福音を語る姿とは」

ある人の「定期刊行物のバックナンバーから」文章で感じたことを語り合う時を持った。

福音を語る時、聖書やキリスト教的なことを一方的に自分たちの物差し(価値観)で提示しやすいと思う。正解か否かより大切なこと、それは愛をもって寄り添う心ではないでしょうか？このサマリヤの婦人は①私の全部を言った人がいると証言(39)。②人々は「自分で聞い」と告白③「ほんとうに世の救い主」だと自ら告白した(42)。私たちの証しも知識に留まらず、主との出会いの喜びと驚きを語り、心から溢れ出る恵みが手渡される機会でありますように。

2017年2月12日 VOL.40-07No.2102

◎祈禱会2/8(水) ローマ3:23、他

「罪」 頼子師「罪」

一般的に罪には法律的、道徳的、宗教的罪があります。聖書では創世記3章に、人は、神のようになりたくて神の信頼を裏切り神の命令を守らず、罪が入り罪を犯すようになったとあります(罪の起源)。それ故、人は神のようになろうと的外れな生き方をします。その範囲はすべての人に、そして全人格に及んでいます。罪の支払う価(結果)は死です(6:23)。聖書は、死とは存在が亡くなることではないと言います(ヘブル 9:27)。私の内に働く罪の存在とその恐ろしさがわかりますか。救われるとさらにわかり、救いの恵み赦しの恵みもさらに深く豊かにわかってきます。

2017年2月5日 VOL.40-06No.2101

◎祈禱会2/1(水) ルカ15:11~24

渡辺師「キリスト教の救いの内容」

語り継ぐ「聖と宣」(IGM説教集)放蕩息子に用意された「五重の恵」。①抱擁と接吻(20) 罪の赦しと和解。対立関係の父と子の和解。②美服(22a) 過去の罪の汚れから洗いきよめられる。悪習慣、悪癖からの解放。③指輪(22b) 無限の祝福の相続人として神の子とされる。奴隷は指輪をしない。④靴(22c) 家族だけが靴を履き奴隷は靴をはかない。靴は長距離を歩く力を意味。⑤大食卓(24) 素晴らしい晚餐。上からの豊かな供給の中で生活。(感想) 信仰者は「雇い人の一人にしてください」の心で(19)、神の家族で喜び仕える者となる。常にその心で歩みたい(22c)。

2017年1月29日 VOL.40-05No.2100

◎祈禱会1/25(水) イザヤ45:5

頼子師「神さま」

神々の世界ですと、便利なもの心地よいものを周りに置くように、便利な神ご利益のあ

りそんな神を私の周りに置き、私が主となります。しかし聖書の神さまはおひとりであり、主であると宣言しています。創造主と被造物の区別が無く境界が曖昧ですと、人間が神を作ったり神になったり、変な宗教が生まれてきます。聖書の神さまは、人に作られた神ではなく人を創造された神さま、そして、全知全能を持って今も私たちのために働いておられる神さまです。あなたがこの神さまを最初に個人的に体験されたのはいつですか。あなたの神体験を大切にそして豊かに。

2017年1月22日 VOL.40-04No.2099

◎祈禱会1/18(水) ルカ5:4、他

渡辺師「深みに招く主」

イエス様はシモン(ペテロ)に「深みに漕ぎ出して」と語られました。主は私たちに現状維持ではなく新しい方向に向かう「深みに漕ぎ出す信仰」の心を求めておられます。それは恐れ、不安、結果を気にする思いになることでしょう。しかし神様の備えは充分で、見たこと、聞いたこと、想像したことをはるかに越える準備をして待っておられます( I コリ2:9、10)。その具体的な方法(鍵)は、「御霊」に導かれて神の深い御心にまで私たちを導びかれること。大切なこのことを再認識して、感謝してお従いさせていただきます。

2017年1月15日 VOL.40-03No.2098

◎祈禱会1/11(水) ヨハネ20:31

頼子師「聖書」

聖書は、神さまから私へのラブレターです。ラブレターをいただいたら、その方のことを知りたくありませんか。ラブレターを書くなら、何とか思いを伝えたいと願いませんか。このラブレターの成立は、偉大な指導者・王・預言者・取税人・医師・漁師など40人の記者によって、BC1500年頃聖書の最初の「はじめに」が、AD100年頃最後の「アーメン」が記され、325年のニケア会議で聖書と制定されました。このラブレターの組立は、古い契約の旧約と新しい契約の新約、世界の初めから世界の終わり迄の組立です。目的は、読者が信じるため(救いに導かれるガイド役)信じていのちを得るため(神と人との役立つ者と育てるトレーナー役)です。

2017年1月8日 VOL.40-02No.2097

◎元旦/聖日礼拝の中から1/1(日) 詩篇127:1~15

渡辺師「主の賜物(相続地)」

ここはソロモンの都上りの歌である。1~2節には、私たちが建てる家庭について。その

努力と労働の努力の中心に、主への信仰が満ちていることの幸いが歌われている。あの壮大な神殿を造ったソロモンは立派な建物と辛苦の労働よりもそこに主がおられる主との幸いを歌った。3～5節には、子供たちは主からの賜物(相続地の意)であり報酬だと語られている。私たち信仰者の子供こそ最大のその賜物であり報酬である。だからこの子供たちに真の神を教え、みことばを語り、どんな苦難と迫害の中でも神への信仰を継承するようにと訓育するのである。その様な者こそ、矢筒に矢を満たした若者であり、私たちの信仰を相続する大切な継承者である。感謝。

2017年1月1日 VOL.40-01No.2096

◎祈祷会12/28(水) ヨハネ20:13～16

渡辺師「振り返る心を」

ここはマグダラのマリヤが復活の主とまっさきに出会った出来事である。I、途方に暮れるマリヤ(13)ただ泣いて涙し、誰がいてもただ一方的に自分の現状、主張、疑問をぶつけるマリヤの姿があった。II、後ろを振り向くマリヤ(14)振り向き見てもイエスとはわからなかった。生活の中でも振り向き確認するが気が付かないことが多々ある。III、再度振り向くマリヤ(16)マリヤはイエス様の「ラボニ」との声によりやく反応し気がついた。今年を①何度も振り向く(反省)大切さ。②イエスの声を受けとめる大切さ。個人的に、親しく、愛をもって呼びかけ語られる主の声にしっかり反応する者とならせていただこう。

2016年12月25日 VOL.39-52No.2095

◎祈祷会12/21(水) ルカ2:11

頼子師「救い主誕生」

「あなたがたのために」とは、労働者代表のような羊飼、知識人代表のような東方の博士、普通の人代表のようなシメオン、宗教家代表のようなアンナなどあらゆる人のためであり、TOYOUとあるようにあなたのためです。「救い主」とは、ふたつの意があり、あらゆることから救い手、守り手のことです。一瞬の誕生なのに永遠者、飼い葉桶限定なのに遍在者、頼りないみどり子なのに全能者、ひと言もしゃべれないのに全知者、むさくるしい馬小屋の創造者、このお方が2000年間、人々の心の中に生まれ続けて下さいました。このお方があなたの心の中にもお生まれくださいましたか。きょうも住んでいてくださいますか。

2016年12月18日 VOL.39-51No.2094

◎祈祷会12/14(水) ヨハネ1:5、9

## 渡辺師「まことの光の到来」

預言され待ち望まれていた主イエスが、「まことの光」(9)としておいで下さった。今まで希望の光として登場した人たちは、やみに勝利することが出来なかった。しかし主が暗闇と戦われる時には、完全な勝利がもたらされるのです。使徒の働き26章18節のパウロの召命(内容)を想起させられる。①見ている世界がやみから光りに変わり、②仕える相手がサタンから神に変わり、③信仰で生きることが明確になる。即ち罪の赦しと聖い生き方と御国を継承する確信をもって人生を歩む者となる。暗やみが戦いを挑まれる時、私たちは光の主のもとにおいて勝利しよう。

2016年12月11日 VOL.39-50No.2093

◎祈祷会12/7(水) ルカ1:45、55

### 頼子師「信じきった人」

これは、エリサベツと主の母マリヤとの会話の中で発せられたことばです。このことばの背景には、最近ごく身近なこととしての「主によって語られたこと」と、長い歴史の流れの中にあって「主によって語られ続けてきたこと」とがあります。あえて「きった」と訳されています。英語の完了形です。私たちには大切な人、必要なものが沢山ありますが、あえてそれらを取り去られた時のことを想像すると、信頼を寄せていたものが何かわかります。主と主のことばへの信頼は、全き平安をもたらせます。アブラハムとその子孫(信じきって歩む私とその子孫)の幸いを覚えましょう。

2016年12月04日 VOL.39-49No.2092

◎祈祷会11/30(水) IIコリント5:17

### 渡辺師「新しさへの再認識」

私たちには「過去にこだわる心」が少なからずあるのではないのでしょうか。ああすれば良かったとか、ああしてしまったとか、ああされたというつらい経験とか。こっちの選択をしさえすれば…とか。しかしそれらの過去の重い心を、解決する真の新しさを見出すことがなかなか出来ないのも事実であり、その入り口が発見出来ないのが現実である。ここに「キリストのうちにあるなら」とある。ここが入口なのです。いつでもこの方と共にあるなら、焦っていても、いらいらしていても、落ち込んでいても、後悔していても、心をリセットしていただき、フラットな心で再スタートが出来るのです。キリストの心の側に立って、日々の歩みを進めていこうではないか。

2016年11月27日 VOL.39-48No.2091

2016年11月20日 VOL.39-47No.2090

◎祈祷会11/16(水) ルカ1:48、5:10

頼子師「これから後」

入院、検査、手術、退院の中であって、主は、自覚して祈ったことを心の内に甦らせてくださった。また、主治医の説明を聞きながら「福音」を思った。「体質です」のことばに、努力によってでは成し得ない生まれつき罪人への主のご介入の恵み、福音を思った。「なってしまったことより、これから後のことを考えましょう」のことばに、朝のディリーブレッドのみことばと主の母マリアの告白であり賛美である「これから後」の恵み、福音を思い起こした。福音の中に幸せがある。命拾いした私たちは(新聖歌248)マリアのようにしあわせ者と呼ばれるでしょう。

2016年11月13日 VOL.39-46No.2089

2016年10月30日 VOL.39-44No.2087

◎祈祷会10/26(水) Iサムエル30:6

渡辺師「私の神によって」

ダビデは二代目の王で、「人は外の形を見るが主は心を見る」として選ばれた。彼は豎琴を弾き道具持ち戦士となり、王のライバルとして殺意が本格化しました。彼はチェケラグに逃げたが、家族をアマレク人に奪われ家も焼かれ泣くばかりでした。部下たちも彼に殺意を抱いた。悩み抜いたダビデは神に祈り、神によって奮い立った(6)。奮い立つとは「自分で自分を励ます」、「自分自身を神の中に織り込んでゆく」こと。悩みと苦難と叫びと涙の心を織り込んで祈るのである。「奮い立つ」は結果で「彼の神によって」との個人経験がより重要なのである。結果、確信をもって戦い捕虜を奪還した。彼の心は疲れた弱者に声をかけ(21)、勝利品の分配にも優しい心を持つ事が出来た(24)。

2016年10月23日 VOL.39-43No.2086

◎祈祷会10/19(水) ヨハネ14:26

頼子師「聖霊は…思い起こさせて」

初めは信仰だけで、聖書が先輩が書物が語ってくれているから、と受け入れ従って歩んできたことが、年数と共に本当だった、間違いなかったと感動することが多くなる。聖霊が思い起こさせてくださるという恵みもそのひとつである。み言葉であったり、讃美の一節であったり、お証のひと言を思い起こさせてくださる。私がこの選択をできたのは、信仰的決断ができたのは、あの方のあのお証が心に留められていたからだ、そのことを聖霊が思い起こさせてくださったからだ、と後から気付くこともある。この恵みに信頼しながら、聖書と聖書の真理をいよいよ心に留め、心に納め、導かれながら歩ませて頂こう。



2016年10月16日 VOL.39-42No.2085

◎祈祷会 10/12(水) マルコ3:14

渡辺師「身近に置かれる恵み」

主は従う者の中から、徹夜の祈りもって12弟子たちを選ばれた。それは「彼らを身近に置き」(14)訓練し、福音の宣教に当たらせるためであった。五輪陸上男子リレー(400m)では、熟練した「アンダーハンドパス」もあって、銀メダルを獲得した。私たちの福音の神髄の継承にも同様の連携が大変大切である。人は「身近に置」かれる時、また主に仕えるその中で主の心と思いや謙遜と敬虔と愛を理解することだろう。私たちはどの場所を意識して主に仕えているのだろうか。もっと主ご自身と主の僕の器たちに注視しようではないか！

2016年10月09日 VOL.39-41No.2084

◎祈祷会 10/5(水) ルカ16:28

頼子師「天国と地獄」

ここで「アブラハムのふところ」と「ハデス」という言葉が使われていますが、私たちが意識する「天国と地獄」の一部が語られている箇所と思います。私は、キリストのもとへ行くことを邪魔する人を偽キリスト偽いやし主と思い、今も死の瞬間も、私と共に永遠の安らぎへ伴っていただくイエスキリストを真のいやし主と信じ、知っています。愛と信頼の関係が築かれていた方が、キリストとはほど遠いところで亡くなられ、もしハデスに居られたとするなら(憐れみの故にアブラハムのふところに居られるかもしれません)「彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように」と思っておられるでしょう。あなたへの愛の故に。

2016年10月02日 VOL.39-40No.2083

2016年9月25日 VOL.39-39No.2082

◎祈祷会9/21(水) ルカ16:28

渡辺師「我を憶えたまえ」

文語では記憶の「憶」で「憶(おぼえ)」とあり、意味深長な訳である。この言葉は勝手気ままな人生を生きて悪を働いた強盗の、生涯での最後の言葉である。一見すると「何と都合のよい言葉か！」と怒りたくなる。しかし私たちの生涯には、しばしば孤独、病気、死別(離別)などの苦しい経験がやってくるが、最後に同じ叫びが心の中にあるのではないだろうか。これは全人類を代表した叫びでもあろう。最も悲惨なのは、誰にも自分の存在が認識されず、自分はたった一人だと言うことではないだろうか。しかし主イエスは、この強

盗の叫びを受けとめ、御国での再会をお約束された。ハレルヤ！

2016年9月18日 VOL.39-38No.2081

◎祈祷会9/14(水) ヘブル12:5~6

頼子師「この勧めを忘れていきます」

年令に関係なく、故意にでもなく、忘れていくということがある。ヘブル書の著者は、この手紙を読むであろう読者に向かって、わが子に対するように、「この勧めを忘れていきます」と箴言3章を語ります。その内容のひとつは「軽んじてはならない」です。生かされ訓練を受けているということの重みをです。もうひとつの内容は「弱り果ててはならない」です。天の父は、全く賢く、ご自身の知恵と善意でその子一人一人を真実に愛しなされ、語りなされるのです。目的があるからです(7~13節)。「わが子よ」と語られた、この勧めのふたつを忘れず！

2016年9月11日 VOL.39-37No.2080

2016年8月28日 VOL.39-35No.2078

◎祈祷会8/24(水) I ペテロ2:2

渡辺師「みことばの乳を」

生まれてきた赤ちゃんが元気に育つかどうかは、その時の体重と言うよりもいかにお乳を飲もうとするかどうか(空腹感)ではないだろうか。聖書は「純粹」と語っている。人の食物(教えや言葉)には、不純で動機の違う混ぜものも沢山ある。また母乳にはあらゆる細菌や病気から守るものが備えられているのですくすくと成長する。さらに日々の歩みの中でも絶えず守り(救い)が加えられる。日々私たちが触れ読み続け味わい続けるみことばには驚くような祝福が備えられているのである。みことばを読んで祈りをささげ、愛とまことの神を見上げる心が、どんなにすごい営みであるかを再認識させていただこう。

2016年8月28日 VOL.39-35No.2078

◎祈祷会8/24(水) I ペテロ2:2

渡辺師「みことばの乳を」

生まれてきた赤ちゃんが元気に育つかどうかは、その時の体重と言うよりもいかにお乳を飲もうとするかどうか(空腹感)ではないだろうか。聖書は「純粹」と語っている。人の食物(教えや言葉)には、不純で動機の違う混ぜものも沢山ある。また母乳にはあらゆる細菌や病気から守るものが備えられているのですくすくと成長する。さらに日々の歩みの中でも絶えず守り(救い)が加えられる。日々私たちが触れ読み続け味わい続けるみことばに

は驚くような祝福が備えられているのである。みことばを読んで祈りをささげ、愛とまことの神を見上げる心が、どんなにすごい営みであるかを再認識させていただこう。

2016年8月21日 VOL.39-34No.2077

2016年8月14日 VOL.39-33No.2076

◎祈祷会8/10(水) イザヤ41:8~10

頼子師「地の果てからのしもべ」

わたしは、神が強め、助け、守るとおっしゃってくださっている者です。なぜでしょう。神のわざを成すために神に選ばれた神のしもべだからです。日常の中で、神の召しと選び(使命と責任)を確かなものと(Ⅱペテロ1:10)。そしてわたしは、地の果てから連れ出され、地のはるかな所から呼び出された者です。領域的にだけでなく、心霊的に神とはほど遠い、そのみ声を聞こうともせず、そのお心を考えようともせず、他の方向を向いていた、地の果てにいた者です。このわたしを神は強め助け守り、友、アブラハム(信仰の父)のすえと呼んでいてくださるのです。

2016年8月7日 VOL.39-32No.2075

◎祈祷会8/31(水) ローマ12:1~2

頼子師「先着がいます」

「心の一新によって自分を変える」とは、決意表明的なこと以上の恵みです。それは、私たちの最も深い部分の性質において、変貌される恵みのことです。芋虫が蝶となる変化を現すための語が用いられているのですから、外部の影響を受けやすい表面的な変化ではないと領けます。生命的変化です。この恵みはどうしたら手にできるのでしょうか。聖霊の変貌させる力に思う存分働いていただくことです。それが、私たちの心をすべて明け渡すと、しばしば表現されている内容です。この恵みを手にした者の歩み方は、「私の心には先着がいます。あなたは入れません」との告白です。罪と罪深さ、この世という型(スタイル)が、心に止まろうとしてくる時に。

2016年8月7日 VOL.39-32No.2075

◎祈祷会8/3(水) ルカ22:39

渡辺師「いつものように」

弟子たちは夕方に決まってオリーブ山に行き主と静かな時を過ごした。「いつものように」とは、平凡な日々の繰り返しだが、予定が狂ったり急な用事があったりで、これがどうしてなかなか難しい。ダニエルはこの大切さを知って、祈りの生活を持っていた(ダニエ

ル6:10)。またパウロも牢獄につながれても、その平常心は変わらなかった(ピリピ1:20)。またサウル王の側近の若いダビデも、王の不機嫌を知ると琴を奏でて問題を解決していた(Iサムエル18:10)。平常心にいつも戻るディシプリン(規律、訓練、しつけなどの意味)を会得しよう。丁稚奉公の弟子のように、主のこの営みを身につけ、習慣になる者とさせていだけよう。

2016年7月31日 VOL.39-31No.2074

◎祈祷会7/27(水) ルカ6:7

頼子師「口実、偽り」

自分を弁護弁解したいとき、あるいはお互いがぶつからず良い関係を維持したいとき、口実や偽りが使われるようだが、多くの場合厄介で、お互いの良い関係を深めるどころか逆の方向へ使われる材料となることが多いのではないか。まず結論があつて、その理由が口実である。他者の口実、偽りに直面したとき、私たちは憤慨しますか、なぜと同情しますか、私も五十歩百歩と思いますか。動揺しながら感情の起伏を覚えながらも、行き着くところは「正しくさばかれる方にお任せになりました」(Iペテロ2:23)です。自らの口実、偽りに気付いたときは、悔い改め、その口に何の偽りも欺きもなかった主の模範に倣わせていただくこと(イザヤ53:9)です。

2016年7月24日 VOL.39-30No.2073

◎祈祷会7/20(水) IIテモテ1:12

渡辺師「お任せしたもの！」

このテモテへの手紙は、パウロの遺言的な証しである。自分は宣教に携わり苦難を経験しているが、恥とは思わないと断言した。私たちは苦難や試練に遇うとすぐ原因を突き止めて、解決したいとか、答えを得たいと願いやすい。しかしパウロは、「私のお任せしたもの」なら、どんなことでも主が最善にして下さることを信じていた。なぜなら「自分の信じて来た方をよく知って」いると証しているから。私たちも、アレコレと答えの出ない迷路から守られ、どんな中を通されても、この主を知っていることの故に動じない恐れのない信仰の歩みをさせて戴きましょう。

2016年7月17日 VOL.39-29No.2072

◎祈祷会7/13(水) ヘブル10:39

頼子師「信じていのちを保つ者」

私たちは、何に恐れをいただきますか。どんな時に恐れ退きますか。使徒16章の看守は、

責任を果たせなかったと思った時でした。また見たのはとびらが開いているそこだけだったのですが、あー逃げてしまったと思い込んでしまった時でした。パウロの大声の叫びが、神の大きな叫び声に聞こえないでしょうか。滅びる者となつてはいけなと。私たちは、信仰の初期の頃より、試練を通過しつつ信仰年数が増すと、信じてきて良かった従ってきて良かったと自覚しませんか。信じる(信頼する)という自覚は、いのちを保つ者へと導かれていきます。私たちは、信じていのちを保つ者です。

2016年7月10日 VOL.39-28No.2071

◎祈禱会7/6(水) 出17:8~16

渡辺師「アマレクとの戦い」

今晚はこの箇所を読んでみた感想をいただく時となった。みことばを読んで個人的(自分)にあてはめて受けとめることの大切さを教えられた。またデイリーブレッドでは「そばに立つ」とあり、不安と恐れの中で講壇で挨拶をする友人の側に立って励ます記事が書かれてあった。私個人も、若者(ヨシュア)と年配者(モーセ)、杖と武器、祈る者と祈られる者。祈る者と祈りを支える者、高地(丘の頂)と平地(現場)、祈禱と勝利の関係、優勢と劣勢のせめぎ合い、重い手と重い石、たった1本の杖でも挙げ続ける重さ(困難と苦痛)などを示された。アドナイ・ニシ(主はわが旗)を信じて祈り合おう。

2016年7月10日 VOL.39-28No.2071

◎祈禱会7/6(水) 出17:8~16

渡辺師「アマレクとの戦い」

今晚はこの箇所を読んでみた感想をいただく時となった。みことばを読んで個人的(自分)にあてはめて受けとめることの大切さを教えられた。またデイリーブレッドでは「そばに立つ」とあり、不安と恐れの中で講壇で挨拶をする友人の側に立って励ます記事が書かれてあった。私個人も、若者(ヨシュア)と年配者(モーセ)、杖と武器、祈る者と祈られる者。祈る者と祈りを支える者、高地(丘の頂)と平地(現場)、祈禱と勝利の関係、優勢と劣勢のせめぎ合い、重い手と重い石、たった1本の杖でも挙げ続ける重さ(困難と苦痛)などを示された。アドナイ・ニシ(主はわが旗)を信じて祈り合おう。

2016年6月26日 VOL.39-26No.2069

◎祈禱会6/22(水) マルコ4:3~9

渡辺師「聞く耳のある者は」

主イエスの種まきのたとえば3つの福音書(共観福音書)に記載されている重要な教え

と言える。種がそれぞれの地に落ちた。①道ばた＝サタンにとられてしまった。②岩地＝すぐに発芽したが試練や困難に対して深く根が伸びていなかった。③いばら＝困難の反対で周囲のこの世の誘惑に気をとられてしまった。④良い地＝大きく豊かに成長できた。主は弟子たちの理解不足を叱責され、その原因が「聞く耳のある者」となっていないからだと言われた(13)。集中して聞こうとする時、私たちの心の耳は研ぎ澄まされる。特にみことばに対して、素早く反応して信仰で選択して歩む者でありたい。

2016年6月19日 VOL.39-25No.2068

◎祈禱会6/15(水) I テモテ4:7

頼子師「戦い、走り終え、守り通し」

パウロは、健全な教えに耳を貸そうとせず真理から耳をそむけて行こうとする時代、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集める時代、空想話にそれていく時代と戦いました。私たちは何と戦いますか。パウロは、みことばを宣べ伝える道のり、伝道者として働く道のり、自分の務めを十分に果たす道のりを走り終えようとしています。私はどのような道のりを走り終えていこうとしていますか。パウロは、信仰を守り通しました。信仰を客観的事実として弁明し続け、主観的事実として経験し続けたのです(17節)。私も主への信頼を捨てず、次世代へ手渡ししましょう。

2016年6月12日 VOL.39-24No.2067

◎祈禱会6/8(水) マタイ25:37~39

渡辺師「いつ?いつ?いつ?」

先日はJEA総会に出席をしてきました。色々な先生と出会う中で自分をおとって下さった方々を思い出しました。神学生の時のバイクでの骨折事故で長く入院をしていた時に、もう召された母教会が同じ姉妹が、お子さんとともに病院まで来られました。神学院の先生も来てくださいました。また最近息子さんが大怪我(骨折)された兄弟も、よく来てくださいました。主は同様に愛の行動をした者たちに、わたしに与え、慰め、尋ねてくれたと語った。しかし言われた方は、それはいつ?いつ?いつ?と問い返した。地震や災害が身近に感じる時、主と同じ心で歩みたい。

2016年6月5日 VOL.39-23No.2066

◎祈禱会6/1(水) イザヤ11:1~3

頼子師「この方(私の主)は」

知恵、悟り、はかりごと、能力、主を知る知識、主を恐れる霊がとどまっているこの方は、

主(父なる神)を恐れることを喜びとします。真の敬虔と、主の権威とみこころに対する敏感な心遣いを持たれ、主を恐れるという芳しい香りを呼吸しているというのです。また、外見だけではさばかず、うわさだけをもとに非難したりはせず、確かな洞察力を持っておられる。ご自身(この方)に対する、私たちの思いの性質をはっきり知っておられるのです。そして、喜んで私と共同作業をしてくださるお方です。罪に対して無力な人間の現実をよーく知っておられるのですから。

2016年5月29日 VOL.39-22No.2065

◎祈禱会5/25(水) ローマ10:17、18

渡辺師「声は全地に響き渡り」

ここに信仰のスタートとその生涯において大切な事が示唆されている。つまり信仰の歩みにおいて「聞くこと」が如何に重要であり、見るよりも話すよりも素晴らしい営みであると言うことである。色々な局面に遭遇した時、人に聞くこと以上に大切なこと、それが神のみことばに素直さと敏感さをもって耳を傾けることである。幼児はある日突然に話し始める。ペンテコステの弟子たちも大胆に語り出す前に、主のことばを3年以上も聞くだけであった。神は全世界に響く声をもって語り続けておられる。これらを「心に響くみことば」として新鮮に受けとめさせていたごう。

2016年5月22日 VOL.39-21No.2064

◎祈禱会5/18(水) 使徒3:15、1:8

頼子師「生き方は証人」

1:8は、生き方に戸惑うであろう弟子たちに主が語られたことばでもあった。共に過ごした主が死なれ、甦られたと思ったら、天に帰ってしまわれるのだから。死に直面し死を真剣に考えたことのある人は、生き方をも真剣に考えたことのある人ではないか。主が示された生き方とは、聖霊によって主の証人になる生き方であった。聖霊が働かれることに明け渡された生き方をしていると、主を証する聖霊が私を通して主を証してくださる。3:15で、ペテロとヨハネが、私たちはこのことの証人だと告白し、また施しを求めるだけの生き方をしていた人が、証人によって証人に変えられた。

2016年5月15日 VOL.39-20No.2063

◎祈禱会5/11(水) ヨハネ16:8～11

渡辺師「その方(聖霊)が来るとき」

ヨハネ14章～16章は、イエスの告別(遺言)説教の箇所である。ここでは聖霊のことが

繰り返し強調し語られている。聖霊は助け主(14:16、26、15:26)、真理の御霊(14:17、15:26、16:13)、罪を示す方(16:8)など。この8~11では、①罪認識を正してくださる(9)、②義の認識を正してくださる(10)、③裁きの認識を正してくださるお方として紹介されている。今「パナマ文書」の公表で世界中が驚きとなっているが、ご聖霊は愛と真実をもって、世界中の「世直しをなされる方」であられる。

2016年5月8日 VOL.39-19No.2062

◎修養会(午後集会)5/4(水) マタイ13:44~46

渡辺師「天の御国の発見者」

イエス様は3回連続で「天の御国」について語られた。前半2つを見てみよう。前者は農夫(小作人)が隠された宝を発見し、後者は真珠商人が貴重な真珠を発見したお話です。違いは偶然(たまたま)か、長いこと探し求めていたかである。救い主に出会うまでの私たちの経緯を想起させられる。共通点はその宝(真珠)のために、全財産を換金して購入した。価値ある人生を最優先、集約して生きたこと。ここでの「天の御国」とは何か。それは神の支配する世界のこと。神の存在や臨在の中に生きることを、どんな中でも選び取り、この救いを喜び踊る者となろう。

2016年5月1日 VOL.39-18No.2061

◎祈祷会4/27(水) II ペテロ3:17~18

頼子師「堅実さを失わず、成長を」

ここは、キリストに従うように選ばれ、同じ尊い信仰を受けた、友である愛する人たちへの勧めです。消極的には「堅実さを失うことにならないようにしなさい」です。堅実さ、確信、POSITION は、積み上げられてきたもの、積み上げられていくものではないでしょうか。迷いに誘い込まれて失うことにならないように。積極的には「恵みと知識(体験)の中にあって成長しなさい」です。成長とは、蒔かれた種が芽、苗、穂という型を通して、その中に実が入っていくことではないでしょうか。また、他者を和ませ喜ばせるが他者の世話はできない赤児が、幼くはあっても多くのことを教えられるが危険で放ってはおけない幼児が、主の前に歩める大人となっていくことではないでしょうか。成長を。

2016年2月14日 VOL.39-07No.2050

◎祈祷会2/10(水) ヘブル6:1~2

頼子師「成熟を目ざして」

初歩の教え基礎的なこととして六つのことが記されている。①悔い改め②信仰③きよ



め④按手⑤復活⑥さばき。基礎なのでしっかり据えないと成熟へと建て上がらない。その上で成熟が勧められている。その秘訣のひとつは、過去でも未来でもなく「今」、今日かも二度目かも長い年月が経ったかもしれない「もし」、主の「御声を聞くならば」、御怒りを引き起こしたときのように「心をかたくなにしない」こと(3:7~8、15、4:7)。一人での成熟ではなく、大祭司イエスがおられる。私を完全に理解する全知と、正しく育ててくださる全能を持ってらっしゃる大祭司イエスのとりなしがある。

2016年2月7日 VOL.39-06No.2049

◎祈禱会2/3(水) ルカ17:10、他

渡辺師「役に立つ者に」

今晚は「教会総会」を前に、幾つかの聖句から豊かに奉仕することとは何かを考えてみたい。新訳聖書の中で神への奉仕の心が変わった人物として、マルコ(Ⅱテモテ4:11)とオネシモ(ピレモン11)を 挙げる事が出来るだろう。彼らはかつては、若くて忍耐がなかったり、自己中心だったり、職務を放棄してしまった。ヤコブは実践の人であり、信仰とは行動にまで反映されなければならないと 語っている(ヤコブ2:14)。また聖書では、どれほどのものをなすかというよりも、愛の心が優先されると語っている(Ⅰコリント13:3、Ⅱペテロ1:8)。奉仕を終えた時「なすべきことなしたるのみ」と告白しよう!!(ルカ17:10)。

2016年1月31日 VOL.39-05No.2048

◎祈禱会 1/27(水) マタイ18:20~35

頼子師「心から赦す」

天の御国の特徴のひとつは、赦しです。自分ではどうすることもできない様々な罪の重荷、失敗とその結果の 重荷を十字架で背負って頂いた「赦された者同志の集まり」です(24節)。また、お互いに「赦し合った者同志の集まり」です(22、35節)。私たちは多くの人たちに赦され赦してきました。地上にあってはこの赦しのある所、そこが御国の心地のする所ではないでしょうか。教会は単に人と人の集まりではなく、人と人と共に、私を赦し続けて下さっておられる主との集まりです(20節)。人はなぜ赦し合えないのでしょうか。受けた傷、与えた傷が大き過ぎたのでしょうか。十字架という大きなバンドエイドがあります。赦すとは忘れること、消すこと。

2016年1月24日 VOL.39-04No.2047

◎祈禱会 1/20(水) ヨハネ14:27

## 渡辺師「世とは異質の平安」

どの世界にも、オリジナルと言われるブランドがある。聖書のここには、主が持ち合わせておられたオリジナルブランドがあり、「平安」であった。なぜなら「世が与えるのとは違います」と語られているからである。これこそ最大の特色であり、世界が総力を挙げてもつくることの出来ない「わたしの平安」である。保証書として「心騒ぐ時、心恐れる時」も充分に通用するとある。しかも欲しい人には、どなたにも与えるとのお約束までもつけてである。この2016年は未曾有の激動の年と囁かれている。この主の平安を豊かにし、確かな歩みをしていこう。